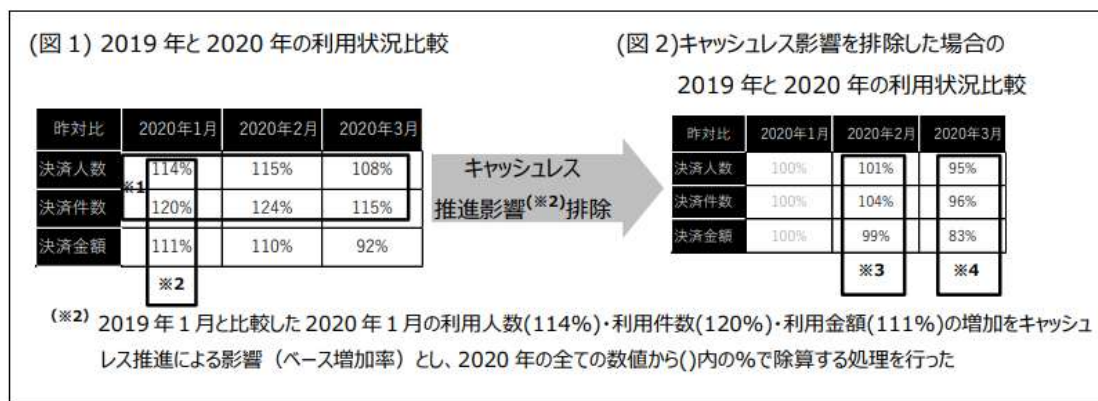


「高齢者の EC モール・通販利用増加 三井住友カード社が顧客データから分析」

新型コロナウイルスに対する警戒が高まるにつれ消費行動が顕著に変化したことが、三井住友カード株式会社のクレジットカード利用データの分析から明らかになった。警戒感がほとんどなかった1月に比べ、自粛ムードがはっきりした3月のカード利用人数・件数・金額はすべて落ち込んでいる。一方、高年齢層の「EC（電子商取引）モール・通販」利用増加が大きいといった消費行動の変化が目立つ。ECサイトには高年齢層にも使いやすい操作性や画面構成・表現の考慮が、これまで以上に必要とされる、と三井住友カードは言っている。

三井住友カードは、同社発行のクレジットカードの利用データを個人、利用店舗が特定されないよう加工・統計化処理し、株式会社顧客時間と共同で分析した結果を5月7日に公表した。同社クレジットカードの決済人数・件数を2019年と2020年の1～3月で比較したところ、いずれの月も増加していた。これはキャッシュレス推進の影響とみられる。2019年10月1日の消費税率引き上げによる消費の落ち込みを防ぐ対策として、政府はキャッシュレス・ポイント還元事業を9カ月限定の措置として実施している。登録加盟店での買い物の際、クレジットカードやQRコード決済などのキャッシュレス決済で支払うと、最大5%のポイント還元が受けられるという制度だ。



(三井住友カード・顧客時間プレスリリースから)

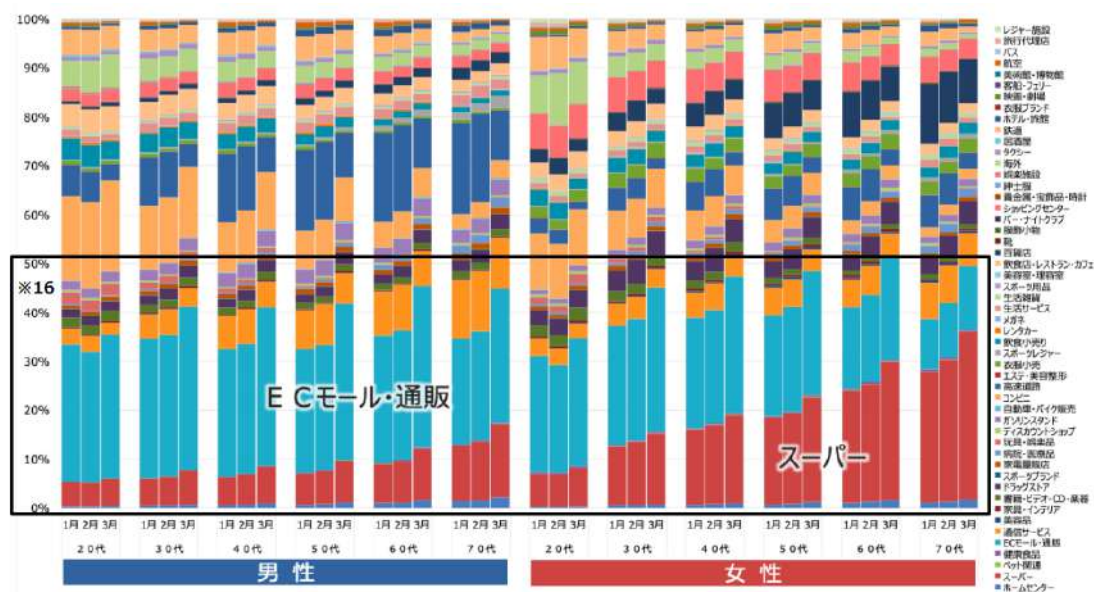
2020年1月についてみると、前年同月に比べ決済人数は114%、決済件数は120%、さらに決済金額も111%とすべて上回っている。この増加分をそれぞれキャッシュレス推進による影響とみて、この影響を排除した2020年2月、3月の前年同月比を算出し直した。すると2020年2月の決済人数はキャッシュレス推進による影響を差し引いても101%、決済件数は104%と依然増えており、決済金額が99%とわずかながら減少しただけだった。しかし新型コロナウイルスに対する警戒感が高まった3月になると大きな変化が現れる。前年同月比で決済人数95%、決済件数96%、決済金額83%とすべてが落ち込んだ。自粛ムード

が顕在化したことによる消費行動の変化がはっきり出た、と三井住友カードはみている。

3月の決済件数、決済金額の前年同月比を業種別でみると、小中高校などの休校や出社・外出自粛要請などに伴う在宅時間増加による消費行動の変化がよりはっきりする。「巣ごもり消費」と称される「ECモール・通販」、「ペット関連」、「通信サービス」などの伸びだ。「ペット関連」は、前年同月に比べ12.0%、「ECモール・通販」は6.7%、「通信サービス」は6.5%それぞれ増えている。「ホームセンター」（前年同月比16.8%増）、「スーパー」（同14.6%増）など、生活必需品を取り扱う業種もまた大きく増えている（%の数値は決済件数と決済金額の増減率平均値）。

これに対し、「レジャー施設」（前年同月比97.5%減）、「旅行代理店」（同91.7%減）、「バス」（同64.4%減）、「航空」（同63.9%減）、「美術館・博物館」（同62.3%減）、「客船・フェリー」（同59.5%減）、「映画・劇場」（同55.7%減）などの落ち込みは激しい。企業自らの営業自粛や、顧客の「三密」回避の行動変容が如実に現れている、と三井住友カードは言っている。

2020年1月～3月業種ごとの性・世代別の決済件数シェア推移



(三井住友カード・顧客時間プレスリリースから)

もう一つ目を引く変化として示されているのが、1月から3月にかけて見られた高齢者（60歳代、70歳代）の消費行動の明白な変化。「ECモール・通販」は各年代とも1月より3月の方が利用は増えている。ただし、60歳代、70歳代の増加幅の方が男性、女性ともに他の年代を上回っていた。増加幅は「スーパー」を上回っており、高年齢層が自らの身を守るために、外出を必要としない「ECモール・通販」を活用していることをうかがわせる。

「こうした高年齢層のデジタルシフト傾向も見逃せない行動のひとつ。一過性の変化としてではなく、世代を問わないデジタルシフトの加速だと理解すると、EC サイトには高年齢層にも使いやすい操作性や画面構成・表現の考慮がこれまで以上に必要とされる」と三井住友カードは言っている。

消費行動に大きな影響が見られた主な品目など（2020年3月）

品目	対前年同月増減率		実質増減率
	名目	実質	への寄与度
食料			(%)
米	16.3	15.3	0.09
パスタ	43.8	44.4	0.02
カップ麺	22.1	15.7	0.02
即席麺	37.8	30.6	0.02
生鮮肉	10.9	10.1	0.19
冷凍調理食品	19.9	22.2	0.04
チューハイ・カクテル	21.9	22.8	0.02
食事代	▲ 28.1	▲ 30.3	▲ 1.23
飲酒代	▲ 51.9	▲ 53.5	▲ 0.33
家具・家事用品			
トイレットペーパー	36.1	26.4	0.03
他の家事用消耗品のその他 ※ウェットティッシュを含む。	48.1	46.5	0.12
保健医療			
保健用消耗品 ※マスク、ガーゼを含む。	19.1	17.8	0.05
他の保健医療用品・器具 ※体温計を含む。	75.4	75.6	0.08
交通・通信			
鉄道運賃	▲ 64.4	▲ 65.2	▲ 0.51
鉄道通学定期代	▲ 55.6	▲ 56.6	▲ 0.06
鉄道通勤定期代	▲ 25.2	▲ 26.7	▲ 0.13
バス代	▲ 44.9	▲ 46.0	▲ 0.04
タクシー代	▲ 40.4	▲ 44.7	▲ 0.06
航空運賃	▲ 84.2	▲ 84.7	▲ 0.21
有料道路料	▲ 42.0	▲ 43.0	▲ 0.12
ガソリン	▲ 18.1	▲ 18.4	▲ 0.34
運送料	17.0	14.8	0.02
教養娯楽			
ゲーム機	175.6	165.8	0.02
ゲームソフト等	161.9	157.0	0.05
書籍	14.7	12.3	0.03
宿泊料	▲ 56.0	▲ 55.4	▲ 0.37
バック旅行費	▲ 83.5	▲ 83.2	▲ 1.05
映画・演劇等入場料	▲ 68.8	▲ 69.6	▲ 0.12
文化施設入場料	▲ 71.4	▲ 71.4	▲ 0.05
遊園地入場・乗物代	▲ 86.7	▲ 86.8	▲ 0.09
インターネット接続料	14.5	12.4	0.09
その他の消費支出			
浴用・洗顔石けん	18.1	15.0	0.02
乳液	▲ 26.2	▲ 28.6	▲ 0.02
口紅	▲ 20.7	▲ 22.2	▲ 0.01

（総務省「家計調査報告—2020年(令和2年)3月分及び1～3月期平均—」から）

新型コロナウイルスによって消費行動がどのように変化したかについては、8日総務省が

公表した3月の家計調査報告からも見て取れる。2人以上の世帯の消費支出（3月）は前年同月に比べ6%減った。報告書は、新型コロナウイルスの感染拡大により消費行動に大きな影響が見られた主な品目を挙げている。前年同月に比べ突出して増えているのは、「ゲーム機」（前年同月比実質165.8%増）と「ゲームソフト等」（同157.0%増）。このほか教養・娯楽関係では「書籍」（同12.3%増）と「インターネット接続料」（同12.4%増）も増えている。

一方、他の教養・娯楽関係は軒並み大幅減。「遊園地入場・乗物代」（前年同月比実質86.8%減）、「パック旅行費」（同83.2%減）、「文化施設入場料」（同71.4%減）、「映画・演劇等入場料」（同69.6%減）、「宿泊料」（同55.4%減）となっている。交通関係も「航空料金」（同84.7%減）を筆頭に「鉄道運賃」（同65.2%減）、「鉄道通学定期代」（同56.6%減）、「バス代」（同46.0%減）、「タクシー代」（同44.7%減）、「有料道路料」（同43.0%減）、「鉄道通勤定期代」（同26.7%減）と、厳しい数字が並ぶ。三井住友カードの分析結果同様、「巣ごもり消費」の増加が総務省の家計調査報告から見て取れる。

新型コロナウイルスが人々の消費行動に大きな影響を与えていることに対しては、感染源となった中国の孔鉉佑駐日大使が、3月27日に日本記者クラブで行われた記者会見で次のように語っている。「無接触パーティー、オンライン教育、オンラインエンターテインメントといった新しい消費方式が生み出されている。これらが中国のサービス業を大きく発展させるとみられる」

また新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐ手段の一つとして、クレジットカードなどキャッシュレスサービスの活用に関心が高まっている。感染経路を素早く突き止め、感染拡大を抑える手段に活用し、初期対応で大きな成果を上げたといわれる韓国やシンガポールの取り組みが注目される。世界で最もキャッシュレス取引の割合が高いといわれる韓国は、クレジットカードとデビットカード（その場で口座から引き落としが可能なカード）の取引記録を新型コロナ感染者の接触者を割り出すために活用している。シンガポールもまた、感染した人物の動きを追跡するためにクレジットカードの支払い記録を活用している。

日文 小岩井忠道（JST 客観日本編集部）

関連サイト

三井住友カード・顧客時間プレスリリース「コロナ影響下の消費行動レポート」

<https://www.smbc-card.com/company/news/news0001527.pdf>

総務省「家計調査報告－2020年(令和2年)3月分及び1～3月期平均－」

[http://www.stat.go.jp/data/kakei/sokuhou/tsuki/pdf/fies\\_mr.pdf](http://www.stat.go.jp/data/kakei/sokuhou/tsuki/pdf/fies_mr.pdf)

関連記事

2020年04月28日「【新型肺炎】世界经合组织发布报告：日本的PCR检测数量明显低于他国」

[https://www.keguanjp.com/kgjp\\_keji/kgjp\\_kj\\_smkx/pt20200428000004.html](https://www.keguanjp.com/kgjp_keji/kgjp_kj_smkx/pt20200428000004.html)

2020年03月31日「【新型肺炎】中国驻日大使对征服新冠病毒充满自信，服务业会进一步发展」

[https://www.keguanjp.com/kgjp\\_keji/kgjp\\_kj\\_smkx/pt20200331000005.html](https://www.keguanjp.com/kgjp_keji/kgjp_kj_smkx/pt20200331000005.html)